

## すべてはもち方から

日々授業を巡視しながら、私はある生徒を探しています。それは正しいペンや鉛筆の持ち方をしている生徒です。正直言ってなかなか見つけれません。昔は間違ったもち方をしている生徒を探していました。今はその逆。正しいもち方をしている生徒をみつけるとほっとします。

どうして正しいもち方ができなくなっているのでしょうか。研究したわけではないのですが、シャープペンシルを使う回数が増えたと格段に増えたことが大きく関係していると思います。

もってみるとわかります。シャープペンシルは円筒状の形をしていますよね。指の力のバランスが崩れると、滑ってシャープペンシルが回転します。回転すると正しくもっていたはずの指の位置がずれ、それでも書き続けるから、知らぬ間にもち方が崩れます。そして、崩れたもち方が自分のもち方になっていってしまいます。滑らないようにすることが、正しい持ち方をどんどん崩していきますし、余分な力入れることになるのではないのでしょうか。

鉛筆は六角形をしています。シャープペンシルより回転しにくく、余計な力を入れる必要がありません。小学生の低学年の時には鉛筆で正しい持ち方ができていても、高学年から中学生にかけてシャープペンシルに興味が生まれるようになります。もち方が徐々に変化していくように私は思います。シャープペンシルは便利ですよね。削る必要もないし、本数も少なくて済むしね。私もよく使います。したがって、私はシャープペンシルを否定しません。しかし、このまま何も気に留めずに使っているなら、今のもち方と一生付き合うことになるかもしれません。今のうちに正しいもち方を心がけてみてはどうでしょうか。

ネットで調べたところによると、間違ったもち方をすると手や腕に疲れがたまります。疲れがたまるから、書くのが面倒くさくなったり、いやになったりするようです。

もう一つ見つけたことがあります。書くときの姿勢が崩れている人に、ペンや鉛筆のもち方が間違っている場合が多いということです。姿勢が崩れると、同じ状態を保つことが難しくなります。そうになると、家庭学習も、短時間で終わってしまうのではないのかな。(十月二日 記)

